

令和6年度

授業改善推進プラン【後期課程】

- ①令和6年度北区立中学校学力向上を図るための全体計画(様式1)
- ②令和6年度第7～9学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析(様式2)
- ③指導方法の課題分析と具体的な授業改善案 5教科(様式3)

東京都北区立都の北学園

令和5年度「北区基礎・基本の定着度調査」を受けての各教科の分析	
国語	「知識・技能」の「漢字の読む」や「漢字を書く」、「文法」を定着させることによって、「思考・判断・表現」の文章読解や文章を書くことにつなげられるように指導していく。
社会	単に覚えるだけの学習活動だけではなく、自分で調べ、文章にする学習活動を取り入れたり、ICT機器を活用した視覚に訴える資料提示により、丁寧な解説をしたりして、主体的に学習に取り組む態度の育成を図る。
数学	習熟度別少人数授業を活用し、基礎・基本の定着を図るとともに、協同学習を行い、意見交換や発表を通じて自分の言葉で説明する力を伸ばし、解く力・考える力を底上げする指導を行う。
理科	既習事項の定着が不十分かつ、考える力や応用力が足りない部分が見られるので、復習中心に家庭学習の充実を図る。また、授業の中では、復習の機会や考える時間・話し合いの場を確保し、確かな力を身に付けさせる。
英語	語彙量を増やし英語を理解する力を向上させることや、既習の語彙や文法を用いて理解した内容を英語で説明するなど、自己表現の幅が増えるよう指導し、偏りのない総合的な能力の向上を図る。

本校の教育目標
社会の急速な発展に伴う教育的課題に対応するとともに、発達段階に応じた9年間の切れ目のない指導を展開し、地域と共にぬくもり溢れる学び舎で、ふるさと北区の一員としての自覚をもち、国際社会で活躍できる児童・生徒を育成する。 1. 自分と他人のよさを認め、互いを思いやる心豊かな人(ゆたかな心) 2. 自ら考え正しく判断し、ねばり強くやり遂げる人(学びつつける力) 3. 心も体も健康で、仲間とともに取り組む人(すこやかな体)

本校が生徒に育成したい力
<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的・基本的な知識・技能の定着・向上 ○家庭学習の習慣化 ○各教科の思考力・判断力・表現力の育成 ○学びに向かう力の育成

学力向上にかかわる経営方針
<ul style="list-style-type: none"> ・各教科の単元・題材のまとまりの計画を立ててから授業に臨む。計画は週案簿に明示する。 ・ICT機器を日常的に活用し、分かる授業を目指す。 ・学習する生徒の視点に立ち、授業を見直し改善する。 ・「授業改善推進プラン」は策定直後からプランに基づく授業改善に日々取り組む。 ・習熟度別少人数指導を実施し、個に応じた指導を展開することで、確かな学力の定着を図る。 ・正しい日本語を用いて指導に当たる。 ・多様なニーズに対応できるよう、教材準備に努める。

校内における学力向上推進体制
<ul style="list-style-type: none"> ○校内研究を日々の授業に生かし、各教科の系統性を見通した授業改善の実践を行っていく。 ○ICTを有効に活用し、分かりやすく創意工夫された授業をして、学力の向上を図る。 ○授業についての情報交換・意見交流を活発に行い、授業力の向上を目指す。

本校の授業改善に向けた視点				
指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ・各教科の単元・題材のまとまりの計画を立ててから授業に臨む。 ・課題に応じた指導に重点を置き、基礎基本の定着を図る。 ・ALTを活用した英語教育の改善を図る。また、数学科で東京方式の習熟度別少人数授業を実施する。 ・一人1台端末「きたコン」の活用を充実させ、基礎基本の定着や考えの共有による学びの深まりを実現していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前期課程、後期課程の系統性を明確にし、それを生かして日々の授業改善を行っていく。 ・GIGAスクール構想における一人1台端末「きたコン」を活用とした授業の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究主題が「自ら学びつつける児童・生徒の育成」である校内研究を推進し、9年間の系統性を見通した授業改善を行い、生徒の学びに向かう力を育成する。研究推進委員会を中心に計画的、組織的に実施する ・教員同士の授業参観や交換授業等のOJT研修を積極的にに行い、それぞれの授業力を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意図的、計画的な指導を通して、授業と評価の一体化を図る。 ・「後期課程評価計画」を作成し、生徒と保護者に周知する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校での教育活動を積極的に公開したり、授業の様子やねらい等を伝えたりすることで、協力して子供を育てる意識をつくっていく。 ・個別懇談や保護者会等を通して、保護者と教員による生徒の相互理解を図る。 ・家庭学習の重要性を個別懇談や保護者会等で継続的に伝え、家庭の協力を得ながら指導を進める。 ・保護者等による学校評価を実施し、学校での教育活動をよりよいものに改善していく。

〔様式2〕

令和6年度 第7学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

東京都北区立都の北学園

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
平均正答率は65.1%で全国平均を3.8ポイント、区平均を3.3ポイント上回る結果となりました。内容項目別(全8項目)では「漢字を読む」が全国平均より1.1ポイント、「漢字を書く」が4.1ポイントと下回りました。他の6項目は全国平均も区平均も上回っています。	観点別(全3観点)では「知識・技能」が全国平均を3.3ポイント、区平均を3.2ポイント上回りました。「思考・判断・表現」は全国平均を6.1ポイント、区平均を4.8ポイント上回りました。「主体的に学習に取り組む態度」は全国平均を9.9ポイント、区平均を8.6ポイント上回りました。	内容「漢字を読む」と「漢字を書く」の正答率の低さによって観点「知識・技能」の正答率が低くなっています。また、「文章を書く」の正答率が高いことが「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」の正答率の高さにつながっています。
社 会		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
正答率は、全国平均を1.8%下回り、区平均を0.3%上回りました。内容の「縄文～平安時代」は2.4%、「鎌倉～室町時代」は0.4%、「明治～昭和時代」は1.9%、区平均を下回りましたが、他の4項目は区平均を上回っています。	「知識・技能」は全国平均を2.9%、区平均を0.3%下回りました。「思考・判断・表現」は全国平均を1.3%上回り、区平均を0.8%上回りました。「主体的に学習に取り組む態度」は全国平均を2.9%、区平均を3.4%上回りました。	社会科用語等の基礎的な知識不足が、内容の「縄文～平安時代」「鎌倉～室町時代」「明治～昭和時代」、観点の「知識・技能」が全国平均や区平均と比べて低い結果につながっていると思われます。複数の資料を活用できる力があるため、観点「主体的に取り組む態度」の高い正答率につながっていると考えられます。
数 学		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
区平均と比較すると11個の内容のうち、三つが下回り、八つが上回りました。特に「平均・場合の数」は-7.7%、「整数の性質」は-2.6%、「文字と式」は+3.6%、「平面図形」は+2.5%という結果となりました。	区平均と比較すると「知識・技能」が-0.1%、「思考・判断・表現」は+2.3%、「主体的に学習に取り組む態度」は+1.4%という結果となりました。ある程度理解はしているがミスが多いと思われます。	内容「平均・場合の数」と「整数の性質」の正答率が低く、内容「文字と式」の正答率が高かったにも関わらず、観点「知識・技能」が区平均よりも低い結果となりました。内容「平面図形」の正答率が高かったため、観点「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」も正答率が高くなりました。
理 科		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
全国平均に対して校内平均が2.8%低い数値となりました。全国平均からも同じ傾向ですが、物質分野の水溶液の性質、エネルギー分野の電気の利用、生命分野のヨウ素デンプン反応の問題などの結果から、実験を伴う内容が苦手という結果となりました。	全体的に「思考・判断・表現」を問う問題が苦手です。電気自動車の記述回答の問題では正答率が19.3%と、苦手分野かつ記述回答の問題となると大きく正答率が下がります。	実験を伴う問題のような、結果から仕組みを読み取る形式の問題の正答率が低かったため、「思考・判断・表現」の正答率の低さにつながったと考えられます。また、第1分野に関わる内容が「知識・技能」、「思考・判断・表現」のどちらも正答率が低くなる傾向になりました。
英 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
全国平均に対して、校内平均を0.8%上回る一方、区平均を0.3%下回る結果となりました。内容別では、九つの内容のうち5つは全国平均を上回り、四つは全国平均を下回りました。「英文の読み取り」に関しては、全国平均を10.5%下回る結果となりました。	「知識・技能」は区平均を2%を下回りました。一方、「思考・判断・表現」は区平均を1.6%、全国平均を2%上回りました。「主体的に学習に取り組む態度」は区平均を0.7%上回りました。	「英文の読み取り」の苦手が「知識・技能」の正答率が低いことの要因になっていると考えられます。英文の完成の問題ではすべての問題において正答率が高く、「思考・判断・表現」の正答率の高さにつながったと考えられます。

[様式2]

令和6年度 第8学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
平均正答率は67.3%で全国平均を2.2ポイント、区平均を0.1ポイント上回りました。ほとんどの内容項目で全国平均を上回っていますが、「漢字を書く」の項目のみ全国平均より11.3ポイント、区平均より8.8ポイントと大きく下回っている点が目立ちます。	「知識・技能」は全国平均より0.3ポイント、区平均より0.9ポイント下回りました。「思考・判断・表現」は全国平均を3.9ポイント、区平均を0.3ポイント上回りました。「主体的に学習に取り組む態度」は全国平均を1.0ポイント上回り、区平均を0.9ポイント下回りました。	「漢字を書く」ことの苦手さが観点「知識・技能」の正答率の低さにつながっていると考えられます。文章を読む問題では文学的文章、説明的文章ともに正答率が高く、「思考・判断・表現」の正答率の高さにつながったと考えられます。
社 会		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
正答率は、全国平均を2.0%、区平均を2.3%下回りました。地理的分野では、「世界の諸地域」で区平均を3.5%上回りましたが、「世界の姿」は6.4%、「日本の姿」は5.1%、「世界各地の人々の生活と環境」は3.6%、区平均を下回りました。歴史的分野では、「中世の日本」の正答率が区平均より11.9%下回りました。	「知識・技能」は全国平均を3.9%、区平均を2.3%下回りました。「思考・判断・表現」は全国平均を0.4%上回り、区平均を2.4%上回りました。「主体的に学習に取り組む態度」は全国平均を2.6%下回り、区平均を5.4%下回りました。	地理資料に関する理解力不足が、内容では地理的分野、観点では「知識・技能」の低い正答率になっていると思われます。内容「中世の日本」の低い正答率は、複数の資料を活用できる応用力が不足しているため、観点「主体的に取り組む態度」の低い正答率につながっていると考えられます。
数 学		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
正答率は全国平均を10.2%、区を3.8%上回りました。「平面図形」は1.2%、「データの分布の傾向」は1.6%において区の平均を下回りました。「正の数・負の数」は8.8%、「1次方程式」は10.4%、「空間図形」は6.8%、「文字式」は2.3%区平均を上回りました。	知識・理解は、全国を10.9%、区を3.9%上回りました。思考・判断・表現では、全国を7.0%、区を2.7%上回りました。主体的に取り組む態度では、全国を7.9%、区を2.6%上回りました。	内容「平面図形」の正答率が平均を下回ったものの内容「正の数・負の数」、「1次方程式」で高い正答率を残したため、観点「知識・理解」の正答率が高くなりました。内容「文字式」、「1次方程式」の正答率の高さが「思考・判断・表現」、「主体的に取り組む態度」の正答率の高さにつながったと考えられます。
理 科		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
平均正答率は、全国平均を1.3%上回り、区の平均も3.8ポイント上回りました。内容別では、「気体の性質」「光の性質」「地震」の分野で全国平均を上回りましたが、「地層」の分野で全国平均を9.2%下回りました。	「知識・技能」は全国を0.9%、区を4.4%上回りました。「思考・判断・表現」は全国を1.8%、区を3.1%上回りました。「主体的に学習に取り組む態度」は全国を6.0%、区を3.7%上回りました。	基本的な知識や実験の技能については、定着ができています。また「気体の性質」「光の性質」に関する問題では、実験結果を確認する問題の正答率が高く、「思考・判断・表現」の正答率の高さにつながったと考えられます。
英 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
平均正答率は全国を6.7%、区を0.9%上回りました。リスニングは対話文が区平均を下回りました。読むことに関しては長文の読み取りが全国、区平均を上回る一方で、語形・語法の知識理解が区平均を下回りました。書くことは、場面に応じて書く英作文が区平均を下回りました。	知識・理解が全国平均を6%、区平均1.1%上回りました。思考・判断・表現では全国を7.5%、区を0.6上回りました。主体的に学習に取り組む態度では全国を14.7%、区を4.6%上回りました。	「場面次応じて書く英作文」の苦手さが観点「思考・判断・表現」の正答率の低さにつながっていると考えられます。語彙の知識理解は正答率が最も高く、「知識・技能」の正答率の高さにつながったと考えられます。

〔様式2〕

令和6年度 第9学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
正答率は全国平均を2.4ポイント、区平均を1.3ポイント上回りました。内容別では漢字の読みや文章を書く問題、文学的文章を読む問題が全国・区平均を上回った一方、発表の聞き取りや漢字の書き、文法・語句問題では全国・区平均を下回りました。	「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点全てにおいて全国平均、区平均をともに上回っていました。	「知識・技能」は全国・区平均を上回ったものの、「漢字を書く」の正答率が低いことが目立ちます。出題されたのは小学校での配当漢字であることから、既習漢字の習得状況を確認し、復習・再定着を図ることが必要です。
社 会		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
全国平均に対して、2.9%下回りました。一方、区平均を0.3%上回る結果となりました。内容別では、「江戸時代」が5.8%、「明治時代」が3.3%、区平均を下回りました。「地域調査の手法」は12.9%区平均を上回りました。	「基礎」や「知識・技能」は区の平均を上回っています。しかし、「活用」や「思考力・判断力・表現力」に関しては、区の平均を下回っています。	内容別で「江戸時代」や「明治時代」が区平均を下回っていて、歴史的な内容について、考えたり、文章で表現したりすることが苦手である。資料等の読み取りを授業で取り入れていくことが必要です。
数 学		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
平均正答率は全国平均を20.0%、区平均を12.5%上回りました。すべての内容項目で全国平均を上回る結果となりました。「式の計算」が全国を33.9%、区を23.5%上回りました。「確率」が全国を13.7%、区を7.1%上回りました。	知識・理解が全国平均を21.7%、区平均を14.0%上回りました。思考・判断・表現では全国を15.7%、区を8.8%上回りました。主体的に学習に取り組む態度では全国を14.9%、区を8.4%上回りました。	内容別正答率や三つの観点で全国・区平均を上回っており、力のある生徒が多いことが伺えます。その中で内容「式の計算」の正答率の高さが観点「知識・理解」の正答率の高さにつながりました。
理 科		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
平均正答率は、全国平均を2.2%下回り、区の平均も1.8%下回りました。内容別では、「植物のからだのつくりとはたらき」「気象の観測」「前線の通過と天気の変化」の分野で全国・区平均を下回りました。	「知識・技能」は全国を4.5%、区を3.4%下回りました。「思考・判断・表現」は全国を0.9%、区を0.2%上回りました。「主体的に学習に取り組む態度」は全国を2.1%、区を2.5%下回りました。	「植物のからだのつくりとはたらき」等の名称についての問題の正答率が低かったため、「知識・技能」の正答率の低さにつながったと考えられます。出題された各部の名称等は、学習状況を確認して復習・再定着を図ることが必要です。
英 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
平均正答率は全国平均を6.8%、区平均を1.1%上回りました。「聞くこと」が全国を2.5%上回った一方で、区を1.3%下回りました。「書くこと」は全国を16.7%、区を6.9%上回りました。リスニングの特に様々な文を聞き取る能力に課題があることがわかりました。	知識・理解が全国平均を8.2%、区平均5.1%上回りました。思考・判断・表現では全国を5.1%上回りましたが、区は1.1%下回りました。主体的に学習に取り組む態度では全国を14.9%、区を4.9%上回りました。	「リスニング(様々な英文の聞き取り)」の苦手さが観点「思考・判断・表現」の正答率の低さにつながっていると考えられます。「語形・語法の知識・理解」「語彙の知識・理解」の正答率が高く、「知識・技能」の正答率の高さにつながったと考えられます。

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
7年	<p>平均正答率では、全国、区の平均をともに上回っている。全体的には小学校での学習内容が定着していることが伺えます。ただし、平均を下回った「漢字を読む」と「漢字を書く」の問題については、既習事項の確認し、繰り返し復習する必要があります。大きく上回った「文章を書く」は、今後も書くことへの抵抗を減らす工夫をしながら、書く機会や添削する機会を増やしていくと、さらに高められると考えます。</p>	<p>新出漢字については、授業の導入で学習する時間を設定し、学習の習慣が付くようにします。また、毎週末には漢字小テストを実施し、定着の有無を確認するとともに、漢字学習への意欲向上を図ります。小学校の既習漢字は年度末等、折りを見て範囲を指定して確認テストを行います。「文章を書く」では、一人1台端末「きたコン」を活用していきます。縦書き、横書き、通知文等、作成した内容を生徒が相互に読み合い、添削や推敲ができるようにします。</p>	<p>文章を書く際には、教科書の模範例に加えて、教員が教科書よりも難易度を調整した模範例を提示することで、さまざまな学習段階の生徒に対応できるようにします。また、書くことに抵抗が大きい生徒には字数が少なく済むようにし、挑戦できる生徒には1600字や2000字等の学校代表作品の選出基準となる上限字数を提示して、意欲向上を図ります。一人1台端末「きたコン」のアプリケーションから演習問題を随時配信します。難易度を自分で調整できるように設定しておきます。</p>
8年	<p>平均正答率では全国、区の平均をともに上回っており、全体的にはこれまでの学習内容が定着していることが伺えます。ただし平均を下回った「漢字を書く」問題については、出題内容が小学校高学年の配当漢字であることから、既習内容の定着が不十分なものがあることが考えられます。「思考・判断・表現」にあたる「読むこと」については、求められる水準に達していると考えられます。</p>	<p>小学校配当分を含めて既習漢字の復習を継続的にを行い、定着を図っていきます。定期的に小テストを実施し、結果を明示します。各単元ごとに既習事項を確認しながら新出事項を提示していきます。音読が効果的な古典では、声に出すとともに時代背景も写真や映像等を用いて理解を深めます。また、一人1台端末「きたコン」を効果的に活用していきます。例えば、文章記述では、構成の段階から清書、読み合い、相互評価まで使用します。発表ではプレゼンテーションソフトの使用で個別最適化した学びとします。</p>	<p>文章記述では、模範解答を提示したり他の生徒の解答を共有したりすることで、書きやすくなるようにします。教員からは具体的なフィードバックを行い、生徒の表現力を高めます。定期的な作文課題では根拠を明確に表現するよう指導します。漢字学習では、定期的な小テストに加えて短文作りなど文脈の中で正しい漢字を実践的に使う練習を通して定着を図るとともに、継続的に学習課題を設定して、定着を促進します。</p>
9年	<p>区の平均正答率との比較で基礎は3ポイント上回っていますが、活用は1.7ポイント下回っています。活用問題で正答率が低いのは話し合いの内容を聞き取り、それに対する自分の考えや根拠とともに記述する問題でした。自分の意見をもつことはできる生徒が多いですが、その根拠を明確にする意識を高める指導をしていきます。漢字学習は新出漢字とともに小学校での既習漢字の復習も継続的にを行い、定着を図ります。</p>	<p>説明的文章の読解や自分の意見を分かりやすく伝える文章を書くなど、実務的な情報を扱う文章を読む、書く力をつけていく必要があります。意見とともに根拠を明確にする重要性を認識させるために、教員から具体的な指摘や質問を行い、生徒の思考を促進させることで、よりの確な表現を模索しようとする態度を育みます。漢字学習については定期的な小テストによって理解度を確認し、不安な部分を補強します。</p>	<p>グループディスカッションやペアワークによる対話練習を通じて、自分の意見と根拠を明確に表現できるよう指導します。教員からは具体的なフィードバックを行い、生徒の表現力を高めます。定期的な作文課題でも根拠を明確に表現するよう指導します。漢字学習では、定期的な小テストに加えて短文作りなど文脈の中で正しい漢字を実践的に使う練習を通して定着を図るとともに、継続的に学習課題を設定して、定着を促進します。</p>

[様式3]

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（社 会）

東京都北区立都の北学園

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
7年	<p>全国平均に対して、1.8%下回りました。一方、区平均を0.3%上回る結果となりました。領域別にみると公民的分野の「我が国の政治」の6題の設問のうち、2題が大幅に全国平均と区平均を下回っています。また、観点別にみると、「知識・技能」が区平均を0.3%、全国平均を2.7%下回っています。「主体的に学習に取り組む態度」は区平均を3.4%、全国平均を2.9%上回っています。また、単語を「書く」設問の正答率が低くなっています。単語を正しく漢字で書くこと、基本的な知識を身に付けさせることが必要です。</p>	<p>歴史的分野に対して苦手意識をもっている生徒が多いです。生徒たちは単語を漢字で書くことに苦手意識をもっています。そのため、授業の中で単語を板書する時は、わかりやすく丁寧に書き、間違いやすい点を説明します。難しい歴史的背景の説明は、平易な文章で説明をして、歴史的分野に興味をもたせ、学習意欲を高めていきます。地理的分野では、地理用語を提示するカードを活用し基礎的な内容の知識の補充・定着に務めるとともに、ICT機器を活用した視覚に訴える資料提示により、丁寧な解説をしていきます。</p>	<p>歴史的分野では、基礎基本の定着を図るために、単元が終わるごとに小テストを実施します。また、ICT機器を活用して調べたり、話し合い活動をしたりすることは得意です。今後は調べたことを発表する機会を設定し、表現力を高めていきます。地理的分野では、長期休業中の課題を有効に利用し、世界の国を紹介するポスター制作に取り組ませることにより、地図、イラスト、グラフを効果的に表現する力の育成を図ります。</p>
8年	<p>正答率は、全国平均に対して、校内平均で2.0%下回り、区平均でも2.3%下回る結果となりました。内容別では、五つの内容のうち全国平均を上回ったのは一つで、四つは全国平均を下回り、「活用」に関しては全国平均を2.6%下回る結果となりました。観点別にみると「知識・技能」を問う問題が全国平均を3.9%下回る結果となりました。「知識・技能」の問題の中でも複数の資料を基に考察し、単語を記述する問題の正答率が下がっています。また、「活用」の問題の正答率が低くなっています。</p>	<p>資料を読み取る課題を頻繁に提示し、活用能力の育成を図ります。さらに課題への取組状況を注視しながら生徒同士で学習内容の相互紹介をさせるなど、取組みが不足している者に対し学習への刺激を与えることにより、主体的に学習に取り組む態度を育てます。また、社会的用語を提示するカードを活用し基礎的な内容の知識の補充・定着に務めるとともに、ICT機器を活用した視覚に訴える資料提示により、丁寧な解説をしていきます。</p>	<p>長期休業中の課題を有効に利用し、都道府県ポスターの制作に取り組ませることにより、地図、イラスト、グラフを効果的に表現する力の育成を図ります。さらに、税の作文への取組を通して文章による表現力の向上を図ります。また、ジグソー学習など多様なグループ学習を取り入れ、一斉講義形式以外に、意欲的に学習活動へ参加できるような授業形態を工夫していきます。</p>
9年	<p>全国平均に対して、校内平均が2.9%下回りました。一方、区平均を0.3%上回る結果となりました。領域別にみると、地理的分野は全国平均を1.6%上回り、区平均を4.9%上回る結果となりました。しかし、歴史的分野は全国平均を7.4%、区平均を4.4%と大きく下回る結果となりました。歴史に関して苦手な生徒が多いです。歴史的分野の中でも「江戸時代」と「明治時代」の正答率が全国平均・区内平均ともに低い結果となっています。また、「基礎」や「知識・技能」は区の平均を上回っていますが、「活用」や「思考力・判断力・表現力」に関しては、区の平均を下回っています。</p>	<p>歴史的分野に対して、苦手意識を感じている生徒が多いため、単に覚えるだけの学習活動だけではなく、自分で調べ、文章にする学習活動を取り入れていきます。これにより、歴史の出来事の背後関係や結果について、「単に覚える」ではなく、思考する中で、身に付けることができると考えます。この学習活動が、観点別で正答率が低かった「思考力・判断力・表現力」の強化にもつながると考えます。</p>	<p>基礎的な内容を定着させていくためにも、今後も「社会科コンテスト」を実施して、7(1)年生・8(2)年生の内容も復習を実施していきます。ICT機器を活用して、調べて、表現する機会を授業の中で増やしていきます。文章で表現する機会に加え、発表の機会も設定していきます。また、グラフや表を活用する力も身に付けることも必要です。このような力を身に付けさせるためにも、長期休業中の課題や自習プリントをクラスに設置して自学自習を促進する環境を整えます。</p>

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
7年	<p>平均正答率は、全国平均を2.3%、区平均を0.8%上回る結果となりました。単元別にみると、「小数・分数の計算」、「比例・反比例」、「データの活用」、「百分率」の正答率が50%を切っています。特に「百分率」は記述の問題で、割合の考えを用いて具体的に説明する必要があるため、正答率が13.3%とかなり低い結果となりました。基礎問題の正答率は69.2%、活用の問題の正答率は57.0%となりました。解き方だけでなく、考え方も含めた丁寧な指導や、言葉を用いて説明する力を伸ばしていくことが課題と考えます。</p>	<p>授業の導入では前時の復習を行い、基礎基本の定着を図ります。習熟度別少人数授業を活用し基礎クラスでは計算問題を特に丁寧に練習し、力を伸ばしていきます。標準クラスでは協働学習を取り入れながら、意見交換を活発にし、考える力や表現する力を伸ばし、思考力を高める授業展開をしていきます。グラフや割合など苦手なところは電子黒板などを生かしながら視覚的・感覚的に刺激する授業としていきます。</p>	<p>単元ごとに小テストを実施し、定着度を確認しながら進めていきます。その結果、基礎クラスでフォローが必要と判断した生徒には補助指導員と協力しながら、個の対応をしていき、つまづきを減らす工夫をしていきます。標準クラスでは発展的な内容にも挑戦し、数学を活用することの楽しさを味わいながら、意見交換や発表を通じて深く学ぶことができるよう促していきます。</p>
8年	<p>平均正答率は、全国平均を10.2%、区平均を3.9%上回る結果となった。単元別に見てみると、「比例・反比例」、「データの活用」において正答率が低くなっています。その他の単元は、概ね区平均以上となりました。区平均を下回った単元の中でも特に、「比例・反比例」は、8年で取り組む1次関数の基礎になってくる単元なので、「表、グラフ、式」の関係を捉えられるように丁寧に指導していく必要があります。</p>	<p>毎授業の導入に授業内容と関連した復習問題を行い、生徒一人一人のつまづきを把握するとともに、基礎学力の定着を図るようにします。習熟度別少人数授業の特性を活かし、クラスのレベルにあった問題を取り入れることで学習意欲の向上につなげます。「関数」の単元においては、問題に応じてICT機器を効果的に活用し、グラフ・表・式の間関係を視覚的に捉えて関数的な見方・考え方を育みます。また、答えに至るまでの過程を重視する問題(説明や記述式問題)を取り組ませることで「習得した知識を活用できる」力を育めるように、授業を展開します。</p>	<p>基礎知識の定着を図るために、定期的に小テストを実施します。また、その結果をもとにフォローアップ学習で苦手を克服する取り組みをします。標準クラスでは問題解決型学習を積極的に取り入れながら発展的な内容も補充します。基礎クラスでは基礎・基本の定着の徹底を目指し、躓きのある生徒には、講師の先生と協力し個別に指導を行っていきます。また、どちらのクラスでも、活用問題を用いて、自分の考えを互いに共有する時間を設けるようにします。</p>
9年	<p>平均正答率は、全国平均を20.0%、区平均を12.5%上回る結果となりました。単元別に見てみると、すべての単元で、区平均以上となりましたが、「証明」の正答率が38.0%となり、他の単元に比べ低い結果となりました。正答率が最も低くなった「証明」は、9年で取り組む「相似」「円」「三平方の定理」の基礎になってくる単元なので、図形の性質を丁寧に復習していく必要があります。</p>	<p>毎授業の導入に授業内容と関連した復習問題を行い、基礎学力の定着を図ります。特に「相似」の単元においては、生徒にGeoGebraのようなICTを操作させ、まずは相似条件を感覚的に理解させることで、図形に対して働かせる数学的な見方・考え方を伸ばします。また、証明を“書く”学習活動だけではなく、証明を“読む”学習活動も授業に取り入れることで、証明を評価・改善をすることができ、「論理的に考察し表現する力」を育みます。</p>	<p>基礎クラスでは、3～5問程度の復習テストをこまめに行い、基礎学力の定着を図ります。やりっぱなしにならないように、フィードバックを丁寧に行い、生徒が理解するまでそれを繰り返します。標準クラスでは、発展問題を取り扱い、さらに力を伸ばせるように指導を行っていきます。どちらのクラスも“説明をする”機会を多く設けるようにします。</p>

[様式3]

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（理 科）

東京都北区立都の北学園

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
7年	<p>平均正答率は、全国平均を2.8%下回り、区の平均を0.4%上回りました。内容別では、「水溶液の性質」、「電気の利用」の分野で正答率が低くなりました。どちらの分野も特に記述問題が正答率が低く、日々の授業で実験レポートの考察を書く練習や、記述で学んだことを表現する場などを授業内で丁寧に扱っていく必要があります。</p>	<p>全体的に「思考・判断・表現」の観点で全国平均を下回っている傾向にあります。単元毎にどのようにすれば問題を解決できるか、仕組みを確かめられるかを大切に、単元後にその説明が自身でできるような授業を展開するようにします。「水溶液の性質」の単元では系統性も踏まえ、ろ過では純粋な水にできない理由や、質量パーセント濃度の計算に入る前の例として身近な飲料などのパーセント表記について考えさせるなど、生徒の興味を引き出す取り組みを通して、生徒の「わかった」が多くなる授業を展開します。</p>	<p>一人1台端末きたコンを用いて、調べ学習では教科書の内容に限定せずに様々な情報から設定課題の探求をさせていきます。また、教科書内で主として扱わずに紹介のみにとどまる実験も演示、または授業で実験を行い、動画や教科書の写真だけでなく、実際に生徒が観ることが出来るような工夫をしていきます。また、基礎的・基本的な学力が身に付いている生徒にはより発展的な学習に取り組めるよう、授業内で模試や入試問題に取り組ませます。</p>
8年	<p>平均正答率は、全国平均を1.3%上回りました。「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の三つの観点の全てで、全国・区の平均を上回っています。特に「主体的に学習に取り組む態度」の観点においては全国平均を6.0%上回っています。内容別では、「生命」の分野での正答率が全国平均より4.0%下回っています。1年前に学習した内容が十分には定着していないことが分かります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容や観察・実験の結果について、十分に考える時間や話し合いの場を確保し、考える力や応用力を身に付けさせます。 ・既習事項の定着を図るために、授業の始めに、復習テストを実施し、既習内容を確認させます。単元の終わりには、問題演習を行ったり課題を出したりします。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査前に問題演習等の時間を設定し、疑問が出てきた生徒や理解が不十分な生徒に対応していきます。 ・夏季休業中の課題として、それまでの学習内容に関する問題を出題することで、基礎的な内容の定着を図るとともに家庭学習の習慣を身に付けるようにします。
9年	<p>平均正答率は、全国平均を2.2%下回り、区の平均も11.8%下回りました。「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の観点の全てで、全国の平均とも下回っており、特に「知識・技能」「主体的に学習に取り組む態度」の観点においては区の平均を2.5%下回っています。内容別では、「地球」の分野での正答率が全国平均より6.4%下回っています。7か月前に学習した内容が定着していないことが分かります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な事物・材料を教材化し、できるだけ実物を提示して授業を行い、生徒に興味・関心をもたせるような授業を展開します。 ・既習事項の定着を図るために、授業の始めに、復習テストを実施し、既習内容を確認させます。単元の終わりには、問題演習を行ったり課題を出したりします。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査前に問題演習等の時間を設定し、疑問が出てきた生徒や理解が不十分な生徒に対応していきます。 ・夏季休業中の課題として、それまでの学習内容の問題を出題することで、基礎的な内容の定着を図るとともに家庭学習の習慣を身に付けるようにしています。 ・3年間の学習のまとめ問題集を用いて、これまでの学習内容を復習する機会をつくります。

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
7年	平均正答率は全国平均を1.2%、区平均を0.3%下回る結果となりました。結果を細かく見ると、「英文の読み取り」においては全国平均を4.9%、区平均を2.8%下回ることから、一番の苦手分野として挙げられます。また、領域別に見ても、「読むこと」の分野において平均正答率が全国平均を1.3%、区平均を2%下回っていることから、全体として英語を読む力を伸ばすことが大きな課題として考えられます。主体的に学習に取り組む態度の平均正答率は84.5%と比較的高いことから、学習のモチベーションを高めながら読む力を伸ばすことが必要です。	英語に強い苦手意識を持っている生徒も多いことから、英語の長文を読む練習をする際には、レベル設定が重要であると考えます。よって初めは比較的読みやすく、短い英語の文を読むことでモチベーションを高め、徐々に分量やレベルを調整することで、無理なく力を伸ばせるように授業を展開します。それに加えて、自宅でも英語を継続してできるように、生徒一人一人のレベルに合った学習課題を与え、英語を読む機会を増やすようにします。	基礎知識の定着を図るために、単元が終わるごとに小テストを実施し、定期的に学習内容を振り返る機会を設けます。また、語彙量を増やす必要があることから、長期休暇後にスペリングコンテストを実施することで、これまでに学んだ英単語の確実な定着を目指します。また、英語が得意な生徒がより力を伸ばすことができるように、授業内で学んだ文法を用いて自己表現をする場面をより多く設けることで、英文を書いたり話したりする力を伸ばせるような環境を整えます。
8年	平均正答率は全国平均を6.7%、区平均を0.9%上回る結果となりました。問題の内容別の正答率を分析すると、リスニングは対話文が全国平均を7.4%、区平均を1.7%上回る一方で内容理解が全国平均を3.9%、区平均を2.4%下回りました。読むことに関しては長文の読み取りが全国平均を8.9%、区平均を4.7%上回る一方で、語形・語法の知識理解が全国平均を上回ったものの、区平均を1.3%下回りました。書くことに関しては、場面に応じて書く英作文が区平均を9%下回り、特にライティングの力を伸ばす必要があることが分かりました。	リスニングは短い対話文や絵を見て答える問題は正答率が高い一方、ある程度分量のあるものを集中して聞く力が付いていないことがわかりました。教科書の英文だけでなく、動画を利用するなど様々な教材を使いながら生徒のリスニング力伸ばします。読むことに関しては読んで理解できる単語を増やすため、毎時間授業の始めに単語の発音練習をしており、それを継続するとともに文の中で単語がどのように使われているのか指導していきます。ライティングに関しては、口頭だけではなく、自分の話したことを書き、添削して生徒にフィードバックしていきます。	語彙量を増やす取り組みとして、ほぼ毎時間単語の読み練習をおこない、口頭でテストを行っているので今後も継続します。文法に関しては定期的に復習を行ったり、英作文をさせることで繰り返し登場させて定着を目指します。英語が苦手な生徒でも難なく取り組める活動を継続することで学習の定着を目指します。また、英語が得意な生徒が自己表現できる機会を確保するため、自分の考えを話す・書く活動も増やしていきます。
9年	平均正答率は全国平均を6.8%、区平均を1.1%上回りました。領域別にみると、「聞くこと」が全国平均を2.5%上回った一方で、区平均を1.3%下回りました。「読むこと」は全国平均を3.4%上回り、区平均は1パーセント下回りました。「書くこと」は全国平均を16.7%、区平均を6.9%上回りました。ライティングの力が確実に付いていることがわかりましたが、リスニングの特に様々な文を聞き取る能力に課題があることが分かりました。	授業に意欲的に取り組む生徒が多く、英語が苦手な生徒も自分の知っている英語で伝えようとする姿勢がみられる。一方で相手が言っていることを聞き取る能力や、長文を読み取る能力には差があるため、個々の生徒に応じて指導を丁寧にしていきます。9年生は入試を見据えた指導もしていくため、読解指導の際には題材や分量を個々の生徒に合わせたものを用意するなどしていきます。	語彙を増やす取り組みとして、毎時間単語の読み練習をおこない、口頭でテストを行っているので今後も継続します。また、長期休業明けにスペリングテストを行い、書ける単語も増やしていきます。スピーキングテストの対策として、様々なトピックを用意し、会話練習を頻繁に行っています。その際ライティングも併せて行い、添削して返すことで生徒自身で言える・書ける英語を増やしていきます。